



愛南町長 清水 雅文

### 「第3次愛南町総合計画」の策定に向けて

あけましておめでとうございます。謹んで新年のごあいさつを申し上げます。今年もコロナ禍の中での新年となりましたが、町民の皆さまにおかれましては、令和4年の新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、早いもので、町長として4期目の任期がスタートしてから2回目の新年を迎えました。町民の皆さま方の声をお聞きしながら、「活力と希望のある愛南町づくり」を基本方針とし、町政を運営してまいりました。私がこうして町政の舵取り役を担うことができているのも、一重に皆さま方のご協力の賜物と、心から厚く感謝を申

し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の影響により、町民の皆さまの暮らしや経済に大きな打撃を受けた一年でした。最前線で対応をいただいた医療従事者の皆さまを始め関係各位には、日々献身的にコロナ対応にご尽力をいただき、心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年の6月ごろから始まった第5波は、全国の多くの地域で過去最大の流行となり、「愛南いやしの郷トラリアスロン大会」や「ぎゅぎゅつと愛南！夏の陣」海と山を喰らうなどのイベントの中止が余儀なくされました。町民の皆さまには、施設の利用中止や不要不急の外出自粛など、大変窮屈な生活をお願いする形になりましたが、皆さまのご協力のもと、町内における感染者数も最小限に抑えることができ、何とか町民生活を守ることができたのではないかと感じております。

本町におきましては、高速道路の早期延伸を最重要課題ととらえておりますが、コロナ禍の影響もあり、直接要望することもできませんでしたが、収束の兆しが見え始めた昨年11月には2度にわたり、山本順三参議院議員、長

谷川淳二衆議院議員とともに国土交通省で渡辺猛之副大臣と面会し、四国横断自動車道「宿毛〜内海」間の早期事業化を求めました。

渡辺副大臣には、本町における高速道路の必要性として、生活や産業の振興に寄与する「地方創生の道」であり、大規模災害に備える「命の道」でもある重要な社会基盤であること訴えました。さらに、南海トラフ大地震を始めとする自然災害に備え、高速道路と国道56号とのダブルネットワークを形成する重要な道路であると要望しました。

今後引き続き、本町における高速道路の必要性を国に対して積極的に要望して参りたいと考えます。

また、民間バス路線の廃止に伴う町民の交通手段の確保と福祉増進などを目的に、平成18年度に運行を開始したあいなんバスについては、私の4期目の公約にも掲げておりましたが、令和4年度に西海地域と久良地区で運行を開始する予定としております。今後、さらなる公共交通の充実を図り、町民の誰もが町内での移動に困らないまちづくりを目指して事業を展開していきたいと考えております。

さらに、町の最上位の計画である「第2次愛南町総合計画（後期基本計画）」の計画期間が令和3年度で終了するにあたり、現在、第2次計画の検証と評価、そして町民アンケートによる意見を踏まえた上で、地方創生に伴う地方版総合戦略および国土強靱化地域計画を包含した、令和4年度から令和11年度までを計画期間とする「第3次愛南町総合計画」の策定作業を急いでいるところであります。縮小の時代に向けての計画づくりにもなるうかと思いますが、愛南町の将来の発展を導けるような実効性のある計画を策定して参りたいと考えております。

このように、今年も愛南町にとって将来の進むべき方向性を決めていく大変重要な年であると認識しておりますので、引き続き全力を挙げて町政運営に邁進してまいります。

結びになりますが、本年が皆さまお一人おひとりにとって、実り多き素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます、新年のあいさつとさせていただきます。



愛南町議会議長 原田達也

## 共に歩む開かれた議会へ

あけましておめでとうございます。町民の皆さまには健やかで希望に満ちた新年をお迎えのことと存じます。

年頭にあたり、議会を代表して謹んで新春のごあいさつを申し上げます。また、本議会に對しまして、日頃からお寄せいただいておりますご支援とご協力に對し、議員一同、深く感謝とお礼を申し上げる次第です。

さて、昨年は4月に町議会議員の改選が行われ、前回よりも定数を2減らし、14人の議員が町民の皆さまの負託を受けました。うち5人が新人議員であり、女性議員も2人となって新たな任期がスタートいたしました。

私にとりましては、議長という大役に就任させていただき、その責任の重大さを痛感しながら議会運営に取り組んだ年でありました。

最大の課題となったのは、今なお収束の見えない新型コロナウイルスへの対応についてであります。現在、感染者数は減少傾向にありますが、地域経済や社会生活に与えたダメージは大きく、今後とも感染拡大防止とのバランスをとりながら、どのように経済や社会生活を回復軌道に乗せるか、引き続き町行政と共に一丸となつて取り組んでまいりたいと考えています。

また、南海トラフ地震や豪雨災害などの自然災害に對して「命の道」となる高速道路の延伸については、工事がこれまでに以上に加速して一日も早く完成するよう、さらには宿毛市間の工事が早期に着工できるように強く要望していかねばならないと考えています。

さて、昨年はコロナ禍の中で延期されていた東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されました。

無観客という異例の状況下での開催となりましたが、日本選手団は、金、

銀、銅合わせて史上最多の58個のメダルを獲得し、パラリンピックにおきましても2004年アテネ大会の52個に次ぐ51個のメダルを獲得して11位と大きく躍進しました。大会の開催については、国内外で賛否両論ありましたが、困難を乗り越え大会を成功させた選手をはじめ関係者の努力は、東日本大震災からの復興に尽くした努力と重なり、「復興五輪」の名にふさわしく、日本人として誇りを感じるものでした。

現在、日本では少子高齢化による活力の低下が課題となっています。人口の都市部への集中により地方の疲弊は加速し、コミュニティの維持が困難な状況もみられるようになりました。愛南町においても同様で、昨年は小中学校の統廃合についての議論もありましたとおり、地域の物的・人的資源をいかに活用し、最適で最上の効果を得るかを常に考えていく必要があります。

地域を維持するためには経済の活性化が必要で、地域に住む喜びを感じるためには生活の質の向上を図ることが必要です。限られた財源の中で最適な政策を選択するためには、町民の皆さまの声をど

のような形で町政に反映させていくか、その過程を大切にすることがあります。

私たち議会は、このような大切な議論をなるべくオープンに行えるよう、昨年4月から「愛南町議会基本条例」を施行して、丁寧で開かれた議会運営に努めてまいりました。この条例の施行により議員一同改めて議員の役割と責務を自覚し、先般の12月定例議会で「議会活性化特別委員会」を立ち上げましたとおり、町民の皆さまの負託に応えられるよう、さらなる議会改革に取り組み、地域産業の活性化、町民の生活の質の向上を目指して、議会と行政が「車の両輪」のように互いに知恵を出し合つて取り組んでいく所存であります。

本年も、議会に對し、町民の皆さまのさらなるご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。と共に、町民の皆さまにとりまして、本年が素晴らしい、幸多き一年となりますようお祈りして、新年のあいさつとさせていただきます。